



Title: みどりの図書館へ

❖ はじめての通信簿

5月に発表された第14回大館市世論調査「あなたが採点する行政の通信簿」。1年おきに行なわれているこの調査で、市立図書館は指定管理者になってから初めての採点を受けました。

結果は、重要度、満足度とも数値は前回は上回りました。26施設中で重要度は15位、満足度は9位です。満足度は前回の12位からランクアップしていますが、重要度は13位からダウン。微妙な結果です。

図書館は自治体住民のための知的インフラとして最も重要な施設（のはず）です。学びがあり楽しみがある、そして長年積み上げたざっと4～5億円の図書資料を保存し提供しています。ランクの昇降に一喜一憂しても始まりませんが、もっと多くの市民・利用者に喜んで利用活用される施設になり、もっと多くのサービスを求められるようにならなければ、と思います。市民からもっと頑張りなさいよとされている、今回の通信簿はそんな印象を受けるものでした。

ついでに言わずもがなの一言を。この種の社会調査ではよくあることですが、回答のなかった60%余りの人たちはどう思っているのか、気になるところです。

❖ 鉢植え増殖中

中央図書館によく来られる方はお気づきでしょうか、先日から館内随所に鉢植えが置かれています。職員が持ち寄った植木鉢に観葉植物が植えられた鉢植えは大小（中小？）取り混ぜて14鉢。今後も徐々に増えていきそうな気配です。

特に新聞雑誌コーナーのソファの脇にある鉢植えは、雑誌を読みながら視線をずらすと目に入るので疲れた眼に心地よいというご意見をいただいています。また、この鉢植えは専用の台に載っていますが、これもなかなか評判です。ちなみにこの台は、カウンター前の物置き台として重宝している木製の台とともに、職員Tさんのお父さんの労作です。図書館としてはたいへんありがたい存在で、紙上を借りて感謝申し上げます。ついでと云っては何ですが、次の作品も楽しみにしております。

そして旺盛な行動力でこれらの鉢植えを主導しているのは、4月から中央図書館の仲間に加わったSさん。彼女自身は事務方なので利用者の目に触れる機会は少ないかもしれませんが、期待の新人です。閃いたら即行動タイプの彼女、どちらかというところブッキッシュ（机上で悩むタイプ？）な図書館員のイメージを払拭してくれる存在かもしれません。

❖ 「みどりのおやゆび」事業スタート

昨年、県立図書館の協力を得て開催した市立図書館の職員研修会で、グループに分かれて事業企画のワークショップを行いました。その中から生まれた企画のひとつが「みどりのおやゆび」（仮称）。農業全般に関する図書を収集、充実させて、市民に活用してもらおうという事業です。市立図書館の4館がそれぞれ担当分野を決め、選書・収集は今年度からスタートしています。とはいえ、予算が別途計上されているわけではないため、通常の資料費の中から各館が意を用いて収集していくものです。

早い話がコツコツ揃えていくわけです。

この事業の推進理由は3つあります。

ひとつは、商品作物への転換や6次産業化、あるいはTPPの行方など、農業を取り巻く環境の変化に地域が取り残されないためです。2点目は、いつか秋田（に限らず日本海側の諸地域）の農業が日本を救う日が来るかもしれないという予感です。考えてみればつい百年ちょっと前には、人口日本一は新潟県だったし「裏日本」という言葉もなかったのですから（以下略）……とにかく日本のために秋田の農業を守る必要があると思うからです。最後は、4館連携の進展を図ることです。分担して資料を集め、いずれ連携して展示・イベントを行えるようになりたいという希望を表明しておきたいと思います。

図書館が好きなだけ資料を購入できるわけではなく、ある程度選択と集中が必要な時代にあって、地域の情報拠点になるために、この事業は大事に、しっかり進めなければと思っています。その思いを表明しておくために駄弁を弄しました。ちなみに「緑の親指」の名称は、英語のGREEN THUMB（園芸の才能）から取ったものです。（陽）